



有珠山噴火に対する 町民意識調査結果

酪農学園大学 資源再利用学研究室 押谷 一

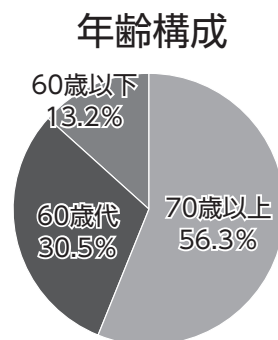
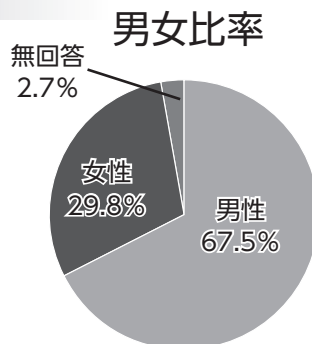
有珠山は昭和の時代から現在までに、1944（昭和19）年、1977（昭和52）年、2000（平成12）年とおよそ20年から30年の周期で噴火をしています。直近では2000年に23年ぶりに噴火し、今後はいつ噴火してもおかしくはないといわれています。

町では、噴火したときに町民みなさんの安全を守るために必要な施策を講じていて、その一環として町民の有珠山噴火に対する意識調査を酪農学園大学資源再利用学研究室が実施しました。

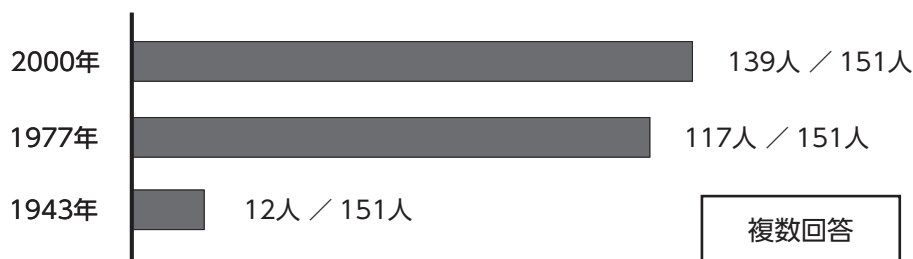
■問合せ 企画防災課危機管理室（☎ 74-3004）

調査の対象

有珠山が噴火したときに影響を受けることが想定される虻田4～8区、かっこう台区、入江1区、入江3～4区、泉区、温泉1～5区、温泉8区の自治会長および自治会役員を対象に実施しました。(回答者 151人)



有珠山噴火の経験



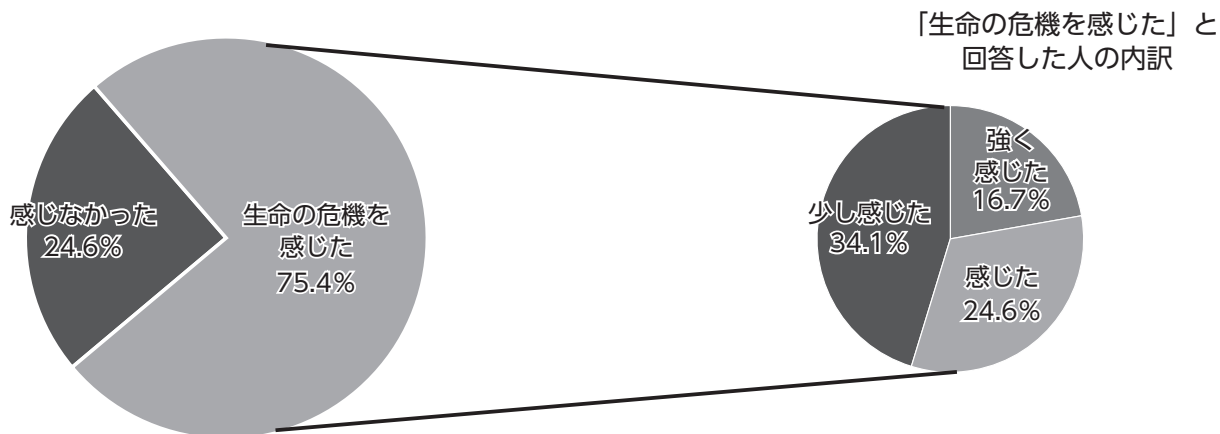
有珠山噴火の経験について、77年前の1944年の噴火を経験した人は12人、44年前の1977年が117人、21年前の2000年噴火では139人の人が噴火を経験しています。

生命の危機・財産への影響

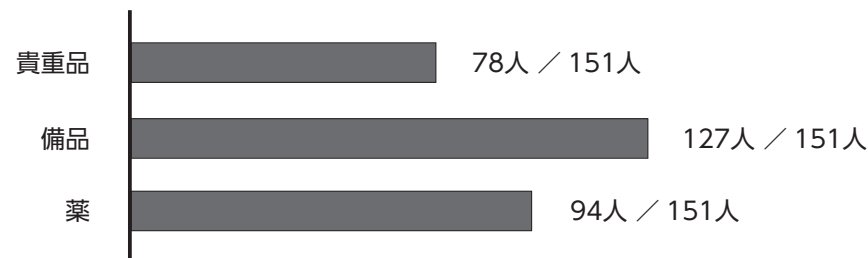
多くの人が経験した2000年噴火では「生命の危機」を感じたと回答した人が75.4%でした。

特に温泉地区の温泉1区～3区、温泉8区の人には生命の危機を感じたという回答が多かったのですが、他の地区からは「全く感じなかった」「少し感じた」という回答もありました。

「土地や家屋などの財産への影響」についてはおよそ9割の人が影響を感じ、特に温泉地区、かっこう台区、入江1区、泉区の多くの人から、影響を感じているとの回答がありました。また、「生活への影響や仕事への影響」についてもすべての地区の多くの人から影響を感じているとの回答がありました。



非常用の持ち出し準備

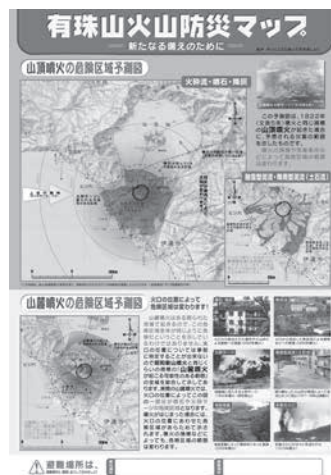
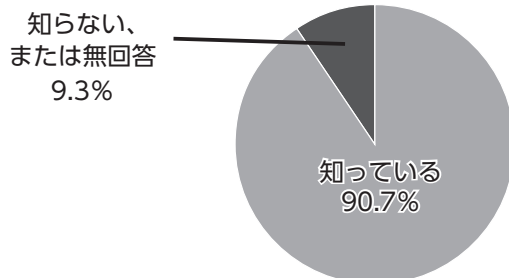


有珠山噴火に備えて「貴重品を持ち出せるように準備している」と回答した人は78人でした。

懐中電灯や携帯ラジオなどの備品については127人の人が準備していて、服用している薬についても94人の人から準備していると回答がありました。

有珠山火山防災マップの認知

各家庭に配布している「有珠山火山防災マップ」により、9割の人から、噴火したときにどのように行動するかを知っているとの回答がありました。



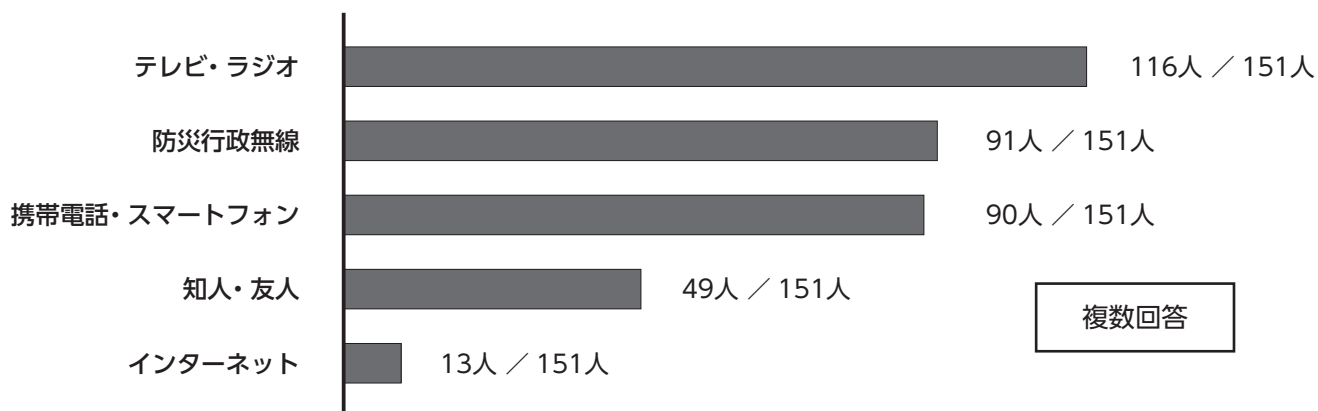
町の有珠山火山防災マップ

情報の入手

噴火の危険が迫ったとき、どのように情報を入手するかという質問については「テレビ・ラジオ」からという回答が最も多く 116人、次いで「防災行政無線」が 91人、「携帯電話・スマートフォン」が 90人、「知人・友人」が 49人、「インターネット」が 13人となりました。

年齢別で見ると、若い人の多くはテレビ・ラジオや

防災行政無線から情報を入手しているとの回答がありました。一方、携帯電話・スマートフォンによる情報の入手については、若い人からの回答が少ない結果となりました。この項目については 60歳代以上の回答者が比較的多いですが、情報の入手に対する回答が少ないため、操作方法が不明なのか、情報元が不明なのかについては詳細な分析が必要となります。

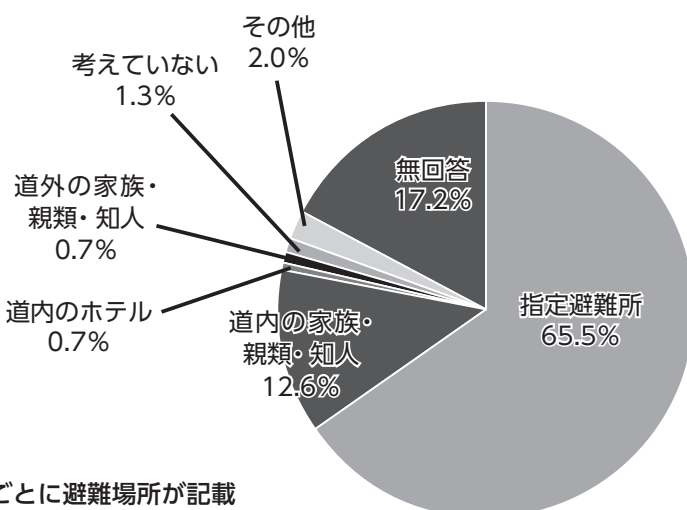


避難する場所

避難先については、「指定された避難場所」が 65.5%と最も多く、「北海道内に居住する家族・親類・知人」は 12.6%。でした。一方、「北海道内のホテル・旅館」「北海道外の親類・親類・知人」という回答はほとんどありませんでした。



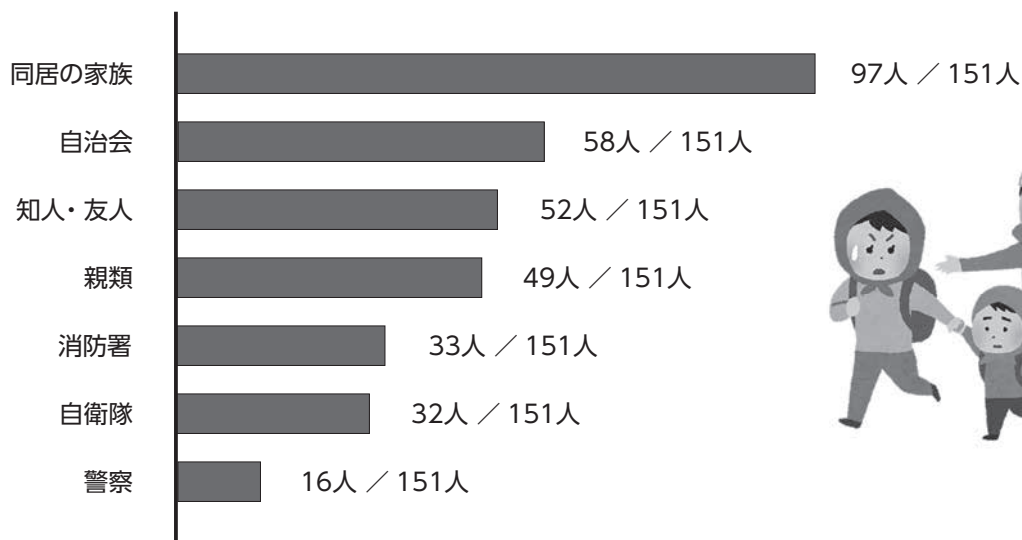
自治会ごとに避難場所が記載されている防災マップ



避難するときの支援

噴火の危険が迫ったとき「手伝ってくれるのは誰ですか」という質問に対して「同居の家族」が最も多く97人、次いで「自治会」が58人、「知人・友人」が52

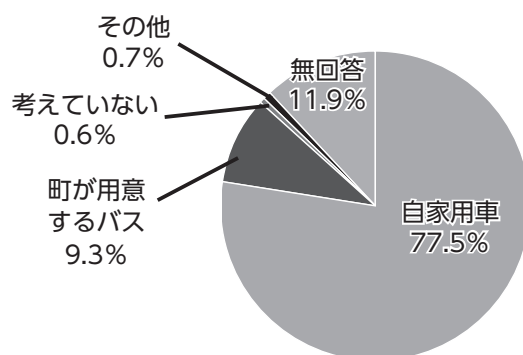
人、「親類」は49人となり、家族や地域の人たちの支援に期待している人が比較的多い結果となりました。



複数回答

避難するときの移動手段

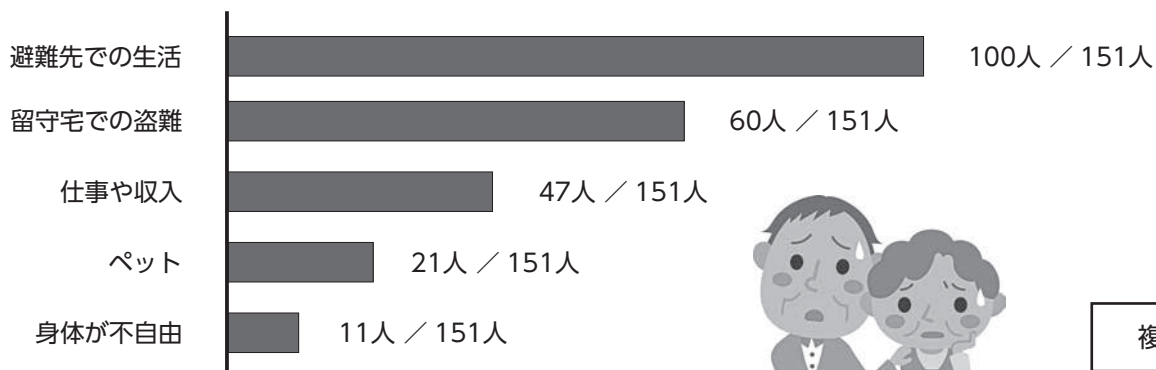
「避難するときの移動手段」について、自家用車を利用すると回答した人が77.5%で最も多く、町が用意するバスを利用すると回答した人は9.3%でした。



避難するときに心配なこと

「避難するときに心配なこと」という質問に対して「避難先での生活」が最も多く100人、次いで「留守宅での盗難」が60人、「仕事や収入」が47人、「ペット」

が21人、「身体が不自由で避難が難しい」と回答した人が11人となりました。



複数回答

調査を通して

今回のアンケート調査は、自治会長および自治会の役員に限定して実施しましたので、町民の皆さんの考えと一致しない部分もあるかもしれませんが、今後、

噴火する可能性のある有珠山と共存するための課題を検討する一つの資料となることを期待しています。